

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 国立民族学博物館研究報告 vol.9-3; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009236">http://hdl.handle.net/10502/00009236</a>

1984・9 9<sub>卷</sub>3<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告

●  
嘉戎語の動作の様態を示す接辞——長野泰彦

古代インド祭式文献に記述された穀物料理——永ノ尾信悟

衣服標本属性論

——MCD 標本シソーラス——

I 固有属性——大丸 弘

民族誌映画の編集にかかわる試論——大森康宏

文字使用の目的——柴田紀男

ホメロスの詩と文字使用——小川正広

李朝の韻書と漢詩押韻の変革

——文字使用政策の一例として——佐藤 進



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

9 卷 3 号

1984年9月

## 目 次

嘉戎語の動作の様態を示す接辞	長野 泰彦	483
古代インド祭式文献に記述された穀物料理	永ノ尾信悟	521
衣服標本属性論		
——MCD 標本シソーラス——		
I 固有属性	大丸 弘	533
民族誌映画の編集にかかわる試論	大森 康宏	571
文字使用の目的	柴田 紀男	593
ホメロスの詩と文字使用	小川 正広	609
李朝の韻書と漢詩押韻の変革		
——文字使用政策の一例として——	佐藤 進	631
彙 報		645
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		648
国立民族学博物館研究報告執筆要領		649

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 9 No. 3

September 1984

---

NAGANO, Yasuhiko	A Historical Study of the rGyarong Adverbial Prefixes .....	483
EINOO, Shingo	Definition of Ancient Indian Food from Grain Based on Vedic Ritual Literature .....	521
DAIMARU, Hiroshi	On the Attributes of Clothing Specimens .....	533
OMORI, Yasuhiro	A Study in Visual Anthropology —Editing from an Ethnological Perspective— .....	571
SHIBATA, Norio	The Functions of Writing.....	593
OGAWA, Masahiro	The Homeric Poems and the Usage of Writing .....	609
SATOH, Susumu	A Rhyming Dictionary and Change in the Way of Rhyming in Korean Chinese Poetry .....	631

**彙 報** (昭和59年4月～  
昭和59年6月)

**人事異動**

(行政職) (昇任)

4月1日 琉球大学施設部長 亀之園藤吉  
(管理部施設課長)

(配置換)

管理部施設課長 和田 満  
(九州芸術工科大学施設課長)

大阪大学経理部経理課長 木野  
光郎 (管理部会計課長)

管理部会計課長 板垣 義信  
(名古屋大学経理部管財課長)

(教育職) (採用)

4月1日 第2研究部助手 永ノ尾信悟  
(九州東海大学講師 工学部)

(辞職)

4月10日 放送大学教授 祖父江孝男  
(第1研究部教授)

(昇任)

5月1日 北海道大学助教授 文学部附属  
北方文化研究施設 煎本 孝  
(第2研究部助手)

第3研究部助教授 小川 了  
(第3研究部助手)

**運営協議員**

氏名	任期
綾部 恒雄	(57. 9. 15～59. 9. 14)
石井 米雄	(59. 5. 16～61. 5. 15)
石川 榮吉	(57. 9. 15～59. 9. 14)
伊藤 清司	(57. 9. 15～59. 9. 14)
大島 襄二	(57. 9. 15～59. 9. 14)
甲田 和衛	(57. 9. 15～59. 9. 14)
祖父江孝男	(59. 5. 16～61. 5. 15)
富川 盛道	(57. 9. 15～59. 9. 14)
中根 千枝	(57. 9. 15～59. 9. 14)
山田 隆治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
吉田 禎吾	(57. 9. 15～59. 9. 14)
伊藤 幹治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
岩田 慶治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
大給 近達	(57. 9. 15～59. 9. 14)

加藤 九祚	(58. 4. 1～60. 3. 31)
君島 久子	(58. 4. 1～60. 3. 31)
佐々木高明	(57. 9. 15～59. 9. 14)
杉本 尚次	(58. 4. 1～60. 3. 31)
竹村 卓二	(58. 4. 1～60. 3. 31)
中村俊亀智	(59. 4. 10～59. 9. 14)
和田 祐一	(57. 9. 15～59. 9. 14)

**館内各種委員会 (6月1日付)**

○標本資料委員会委員

岩田 慶治	佐々木高明	中村俊亀智
大塚 和義	松山 利夫	福井 勝義
森田 恒之	永ノ尾信悟	須藤 健一
泉 幽香	板垣 義信	岡田 精志
佐藤 嗣	柴田 正美	

○映像・音響資料委員会委員

伊藤 幹治	佐々木高明	藤井 知昭
大給 近達	松山 利夫	大森 康宏
山本 泰則	板垣 義信	岡田 精志
佐藤 嗣	柴田 正美	

○図書委員会委員

伊藤 幹治	佐々木高明	片倉 素子
守屋 毅	松原 正毅	大丸 弘
吉本 忍	庄司 博史	石森 秀三
板垣 義信	佐藤 嗣	

○国内資料調査委員会委員

佐々木高明	杉本 尚次	中村俊亀智
大塚 和義	松山 利夫	守屋 毅
大丸 弘	中牧 弘允	秋道 智彌
櫻井 哲男	板垣 義信	佐藤 嗣
柴田 正美		

○情報システム委員会委員

佐々木高明	小谷 凱宣	栗田 靖之
松澤 員子	江口 一久	石毛 直道
小山 修三	杉田 繁治	久保 正敏
福川 圭子	山本 泰則	板垣 義信
岡田 精志	佐藤 嗣	柴田 正美

○情報化委員会委員

竹村 卓二	佐々木高明	小谷 凱宣
栗田 靖之	松澤 員子	端 信行
藤井 龍彦	杉田 繁治	長野 泰彦
大森 康宏	八杉 佳穂	久保 正敏
板垣 義信	岡田 精志	佐藤 嗣
柴田 正美		

○展示委員会委員

竹村 卓二 大給 近達 中村俊亀智  
 大塚 和義 江口 一久 小川 了  
 黒田 悦子 森田 恒之 重松真由美  
 宮本 勝 吉本 忍 庄司 博史  
 八杉 佳穂 秦 明夫 岡田 精志  
 佐藤 嗣 柴田 正美

○出版委員会委員

加藤 九祚 君島 久子 杉村 棟  
 松原 正毅 和田 正平 友枝 啓泰  
 藤井 龍彦 垂水 稔 ケネス・ラドル  
 長野 泰彦 永ノ尾信悟 大塚 和夫  
 櫻井 哲男 徳岡 昇

○広報普及委員会委員

加藤 九祚 君島 久子 和田 祐一  
 杉本 尚次 周 達生 田邊 繁治  
 吉田 集而 小川 了 小山 修三  
 杉田 繁治 垂水 稔 秋道 智彌  
 泉 幽香 秦 明夫 磯村 紘  
 板垣 義信 徳岡 昇 岡田 精志  
 柴田 正美

○環境保全委員会委員

佐々木高明 竹村 卓二 伊藤 幹治  
 大給 近達 加藤 九祚 岩田 慶治  
 吉田 集而 石毛 直道 秦 明夫

磯村 紘 板垣 義信 和田 満  
 徳岡 昇 岡田 精志 佐藤 嗣  
 柴田 正美

○防災対策委員会委員

竹村 卓二 佐々木高明 伊藤 幹治  
 加藤 九祚 岩田 慶治 秦 明夫  
 磯村 紘 板垣 義信 和田 満  
 徳岡 昇 岡田 精志 佐藤 嗣  
 柴田 正美

○大学院委員会委員

竹村 卓二 佐々木高明 伊藤 幹治  
 加藤 九祚 岩田 慶治 和田 祐一  
 杉本 尚次 秦 明夫

○受託学生審査委員会

竹村 卓二 佐々木高明 伊藤 幹治  
 加藤 九祚 岩田 慶治 君島 久子  
 藤井 知昭 和田 祐一 大給 近達  
 杉本 尚次 中村俊亀智 小谷 凱宣  
 杉村 棟 和田 正平 杉田 繁治

○施設整備委員会委員

佐々木高明 藤井 知昭 中村俊亀智  
 端 信行 黒田 悦子 野村 雅一  
 中山 和芳 秦 明夫 板垣 義信  
 和田 満 岡田 精志 佐藤 嗣

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
松原 正毅	助教授(第2研究部)	59. 4. 1	59. 4. 8	中華人民共和国
山本 紀夫	助教授(第4研究部)	59. 4. 2	60. 4. 1	ペルー, ポリビア, チリ, エクアドル
梅棹 忠夫	館長	59. 4. 4	59. 4. 10	フランス
小川 了	助教授(第3研究部)	59. 4. 4	59. 5. 23	フランス, イタリア
岩田 慶治	教授(第5研究部)	59. 4. 5	59. 4. 10	タイ, ビルマ
ケネス・ラドル	助教授(第5研究部)	59. 4. 8	59. 4. 22	フランス, 連合王国
松澤 員子	助教授(第2研究部)	59. 4. 11	59. 5. 20	アメリカ合衆国, フランス
櫻井 哲男	助手(第5研究部)	59. 4. 27	59. 6. 22	大韓民国
梅棹 忠夫	館長	59. 4. 29	59. 5. 23	フランス
ケネス・ラドル	助教授(第5研究部)	59. 5. 25	59. 6. 2	カナダ
加藤 九祚	教授(第4研究部)	59. 5. 29	59. 7. 24	ソビエト連邦
江口 一久	助教授(第3研究部)	59. 6. 5	59. 6. 27	中華人民共和国

彙 報

大塚 和義 助教授 (第1研究部)	59. 6. 9	59. 6. 19	中華人民共和国
杉田 繁治 助教授 (第5研究部)	59. 6. 10	59. 6. 26	イタリア, ノルウェー, 西ドイツ, 英国, アメリカ合衆国
友枝 啓泰 助教授 (第4研究部)	59. 6. 18	59. 7. 15	ペルー, ボリビア
片倉 素子 教授 (第3研究部)	59. 6. 21	59. 9. 21	連合王国, フランス, カナダ, ドイツ連邦共和国
櫻井 哲男 助手 (第5研究部)	59. 6. 26	59. 7. 3	タイ国

来館者抄

4月12日	William SHACK (アメリカ合衆国 カリフォルニア大学パークレー校大学院学長)	5月10日	漢 宝 徳 (台湾 国立自然科学博物館)
13日	中国現代国際関係研究所代表団 陳 叔 亮 (団 長) 周 志 賀 (副団長) 王 丹 若 (秘 書) 幸 賦 康 (団 員) 関 鍵 ( / ) 商 晶 ( / ) 李 信 根 ( / ) 干 閔 嫻 ( / ) 干 清 高 ( / ) 洪 秀 義 ( / )	12日	Toeti Heraty NOERHADI (インドネシア共和国 ジャカルタ芸術評議会会長 インドネシア大学講師)
17日	李 奎 浩 (大韓民国 韓国教員大学校総長)	17日	朱 明 (中華人民共和国 対外文化部連絡局顧問)
21日	吉武 泰水 (九州芸術工科大学学長)	20日	王 志 龍 (中国兵馬俑随展員) 楊 曉 能 ( / ) 孫 曉 詳 ( / )
24日	Clifford GEERTZ (アメリカ合衆国 プリンストン高等研究所)	21日	中国電影技術代表団一行 馬 守 清 (団 長) 何 希 曾 (団 員) 刘 錦 如 ( / ) 楚 译 洋 ( / ) 張 岩 峰 ( / )
26日	日中电视录像网中国访日団 刘 昭 东 (団 長) 王 荫 (団 員) 田 树 梓 ( / ) 董 英 ( / )	6月8日	伊谷純一郎 (京都大学教授 理学部)
		20日	山口 昌男 (日本民族学会会長)
		21日	William H. COALDRAKE (アメリカ合衆国 ハーバード大学講師美術建築学科)
		23日	W. R. SCHRECK (パプア・ニューギニア パプア・ニューギニア大学助教授 文学部) Diane L. BUCK

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1  
国立民族学博物館内  
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

【柳田 1942: 67-69】  
【Leach 1961: 123】  
【柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123】

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

【柳田 1942a: 20-22】【柳田 1942b: 10】
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 9卷3号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

加 藤 九 祚

〔編集委員〕

永ノ尾 信 悟

大 塚 和 夫

君 島 久 子

ケネス・ラドル

杉 村 棟

友 枝 啓 泰

垂 水 稔

長 野 泰 彦

藤 井 龍 彦

松 原 正 毅

和 田 正 平

---

昭和59年12月25日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 9卷3号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1

TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.9 no.3  
September 1984

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| <b>NAGANO, Yasuhiko</b> | <b>A Historical Study of the rGyarong Adverbial Prefixes</b>                          |
| <b>EINOO, Shingo</b>    | <b>Definition of Ancient Indian Food from Grain Based on Vedic Ritual Literature</b>  |
| <b>DAIMARU, Hiroshi</b> | <b>On the Attributes of Clothing Specimens</b>  |
| <b>OMORI, Yasuhiro</b>  | <b>A Study in Visual Anthropology<br/>—Editing from an Ethnological Perspective—</b>  |
| <b>SHIBATA, Norio</b>   | <b>The Functions of Writing</b>   |
| <b>OGAWA, Masahiro</b>  | <b>The Homeric Poems and the Usage of Writing</b>                                     |
| <b>SATOH, Susumu</b>    | <b>A Rhyming Dictionary and Change in the Way of Rhyming in Korean Chinese Poetry</b> |



National Museum  
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X